1

無料の授業案 · 目標1 · 貧困をなくそう

貧困はお金だけの問題じゃない

対象年齢 11–13歳 · 60分



イラスト：Noemí Villamuza（木のおかあさんより） · © Noemí Villamuza

物語 · *木のおかあさん*

秘密のかくれがで目を閉じたアブリルは、ワンガリ・マータイの物語を思い描きます。ひとりの女性がバスを降りたのは、木がすっかりなくなったケニアの村のはずれでした。土は乾いてむき出しになり、池はからっぽの穴になり、女性たちは薪と水を求めて毎日もっと遠くまで歩き、子どもたちはやせ細っています。ワンガリは黙って見ていません。いちばん古い木々の森へ行き、大地に許しをもらって七本の苗を掘り出し、自分の庭に植えます。最初に向かいのおばあさんが、やがて村の女性たちが加わり、ぼろ布でテントを縫って種を芽吹かせますが、男性たちは笑います。ワンガリはさらに製材所の主人と地元の役所の扉をたたきます。ひとにぎりの苗が村全体を変えられるでしょうか。巻末では、本物のワンガリ・マータイと、彼女が始めたグリーンベルト運動が紹介されます。

文：Ricardo Alcántara · 絵：Noemí Villamuza

話し合いの問い

ワンガリが役所に出したリストには、木のほかに住まい、大人の学びの場、健康診断、協同組合も入っています。それぞれ貧困とどう関係しているでしょう？

学習のねらい

- 所得、健康、教育、生活環境のうち3つ以上の側面を使って、貧困が「多次元的」である理由を説明できる。
- 家族のプロフィールにある簡単なデータから、満たされていないニーズを判断できる。
- 困っている人を助ける地域のサービスや場所を3つ挙げ、そのうち1つが何をしているかを説明できる。

準備するもの

- 印刷した架空の家族プロフィール4種類（各グループに1枚、主な活動を参照）
- A3用紙とカラーペン
- 黒板
- 任意：学校周辺の地図（地域の地図または印刷したもの）

キーワード

極度の貧困 — 世界銀行が定めた国際貧困ラインより少ないお金で生活していること

多次元的 — 1つだけでなく、たくさんの部分や側面があること

所得 — 人や家族が受け取るお金

社会福祉 — 助けが必要な人への、政府による支援

セーフティネット — 人がもっと深刻な苦しさに落ちこまないように支える仕組み

剥奪（はくだつ） — 生きるのに必要な大切なものを持てていないこと

教科との関連

理科: 人の健康と体に必要なもの；きれいな水と栄養。

地理: 世界の開発の状況；地域や生活環境の比較。

公民・シティズンシップ: 権利と責任；地域や政府が人々を支える仕組み（社会福祉、給食費の無償化、医療）。

算数・数学: 表と簡単な統計の読み取り；「10人に1人」を分数と百分率で表す。

国語・言語: 情報を得るための読解；根拠を示して自分の考えを説明する。

ユネスコESDコンピテンシー: システム思考のコンピテンシー

授業の流れ

何が豊か？ · 10分

先生

- 黒板に書く：「2つの家族の所得はまったく同じです。それでも、一方がもう一方よりずっと貧しいということはあるだろうか？」
- ペアで2分間話し合わせてから、意見を集める（一方は診療所から遠い、一方にはきれいな水がない、一方の子どもは学校に通えない、など）。
- 事実を紹介する：世界の約10人に1人が極度の貧困の中で暮らしており、医療や安全な水といった基本的なものがない人はさらに多い。

児童・生徒

- となりの人と問いについて話し合おう。
- お金のほかに人に必要なものについて、考えを1つメモしよう。

家族プロフィール：足りないものを見つけよう · 22分

先生

- 各グループに架空のプロフィールを1枚ずつ配る。例：「アマロ家：大人2人、子ども3人。両親は低い賃金で長時間働いている。いちばん近い診療所までは歩いて2時間。いちばん上の女の子は毎朝水くみをしていて、よく学校を休む。家には電気がある。」
- 5つのメーター（お金、健康、教育、水と食べ物、安全）がある「ダッシュボード」をかかせる。プロフィールの根拠をもとに、それぞれのメーターを緑・黄・赤で塗らせる。
- 問いかける：一度にいちばん多くのメーターを改善できる変化を1つ選ぶとしたら何か？（例：近くに給水所ができれば、学校に行く時間ができる。）
- 各グループに60秒ずつ発表させ、「1つの変化」のアイデアを黒板に記録し、それぞれの側面がどうつながっているかを指摘する。

児童・生徒

- プロフィールを読んで、それぞれの側面の根拠に線を引こう。
- 5つのメーターに色を塗り、それぞれに理由を1つ書こう。
- いちばん役に立つ変化を1つ決めて、その理由を説明しよう。

ミッション:「🗺️ Community Helpers Map」（地域のお助けマップ） · 18分

先生

- 貧困は、個人だけでなく地域の力で乗り越えていくものだと説明する。
- ミッションの Spark をクラス全体で一緒に進め、そのあと学校周辺の地図を使って、授業の中で Do のステップを始めさせる。
- Prove のステップ（助けてくれる場所の1つが実際に何をしているかを調べる）は、家庭学習か次の授業で仕上げることを確認する。

児童・生徒

- Spark を読んで、グループで話し合おう。
- 自分の住む地域をかいて、困っている人を助ける場所を3つ書きこもう（例：フードバンク、診療所、図書館、チャリティーショップ、公民館）。
- そのうち1つが何をしているかを知るために、たずねる質問を1つ書こう。

1つの文、3つの側面 · 10分

先生

- 次の文を完成させる：「貧困はお金だけの問題ではない。〜の問題でもある。」
- 3〜4人の答えを聞いてから、振り返りカード（出口チケット）に取り組ませる。

児童・生徒

- 2つ以上の側面を使って文を完成させよう。
- 振り返りカードに答えよう。

振り返りカード

所得が同じ2つの家族が、同じように貧しいとは限らないのはなぜだろう？例を挙げて説明しよう。

解答例: 貧困は多次元的だから。一方の家族は診療所や学校から遠かったり、きれいな水がなかったりするかもしれず、所得が同じでも健康や教育の面で欠けているものがある。

おうちで

児童は家でミッションの Prove のステップを仕上げる。家族に、地域で助けてくれる場所（例：フードバンクや公民館）が何をしているかをたずね、自分の地図に書き加える。

個別対応 · 支援

- 大事な文にあらかじめ線を引いたプロフィールと、5つのメーターをかいておいたワークシートを用意する。
- キーワード一覧を使う：健康、学校、水、お金、安全。

個別対応 · 発展

- 2つのプロフィールを比べてどちらの家族が「より貧しい」かを決め、それが何を測るかによって変わる理由を説明させる。
- UNDPの「多次元貧困指数」を調べ、使われている指標を書き出させる。

達成基準

- 貧困の側面を3つ以上挙げることができる。
- プロフィールの根拠を使って、満たされていないニーズを判断できる。
- 地域で助けてくれる場所と、その役割を挙げることができる。

取り扱いの注意

クラスには、今まさに経済的に苦しい生活をしている児童生徒がいるかもしれません。自分の家や収入、持ち物について話させることは絶対に避け、代わりに架空の登場人物を使ってください。貧困は不公平なチャンスの問題であり、人が怠けているとか能力が劣っているということではない、というメッセージを一貫して伝え、だれにも自分がどのグループに当てはまるかを言わせないようにしてください。

オンラインで無料、アカウント不要

- 目標1のミッション動画を見る: **eco-heroes.org/ja/sdg/1/**
- 目標1のゲームのチャプターを遊ぶ: **eco-heroes.org/game/?lang=ja**
- 目標1のクイズに挑戦する: **eco-heroes.org/ja/trivia/?sdg=1**
- 無料の読書ガイドを読む: **eco-heroes.org/ja/library/the-tree-woman/**
- 目標1 教師用パック: **eco-heroes.org/ja/teachers/goal-1-pack/**

出典

- UN — Goal 1: End poverty（英語） — https://www.un.org/sustainabledevelopment/poverty/
- World Bank — Poverty overview（英語） — https://www.worldbank.org/en/topic/poverty/overview
- UNICEF — Child poverty（英語） — https://www.unicef.org/social-policy/child-poverty

© 2026 Eco Heroes International SL · CC BY-NC-ND 4.0 · creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/